２７福保健感第１０５２号
平成２８年３月１１日

各日本語教育機関管理者　殿

東京都福祉保健局感染症危機管理担当部長
（公印省略）

日本語教育機関における結核対策のより一層の取組について（依頼）

日頃より東京都の結核対策に御理解と御協力を賜り御礼申し上げます。

さて、この度、都内日本語教育機関において、生徒が結核を発病し、他の生徒や職員に感染が拡がる事例が発生しました（裏面参照）。日本語教育機関の生徒は結核の高まん延国出身者であることも多く、日本に入国する前に結核に感染し、来日後に発病する事例が見られます。

狭い空間で授業を行う教育機関においては、一たび結核患者が発生すると他の生徒や職員に感染させる危険が高く、結核の発生は学校の運営や生徒の学習に多大な影響を及ぼします。

多くの日本語教育機関で生徒に対する胸部エックス線検査の実施など結核対策に取り組んでいただいておりますが、有症状時の医療機関受診の徹底など、より一層結核対策に取り組んでいただきますようお願いいたします。

なお、都では平成２６年３月に学習塾管理者を対象とした結核対策のリーフレットを作成いたしました。参考にお送りしますので、あわせて御活用ください。

【送付資料】
・日本語教育機関における結核集団感染事例（概要）と学生の出身国の結核の状況
・(参考) 学習塾向け結核対策リーフレット「その咳、本当に風邪ですか？結核に御注意ください。」

問合せ先
東京都福祉保健局健康安全部感染症対策課
結核係
電話　（０３）５３２０－４４８３

都内日本語教育機関における結核集団感染事例（概要）と学生の出身国の結核の状況

○事例（概要）

○　患者Ａは都内日本語教育機関Ｂ校に入学するため来日。平成２７年９月頃から咳症状あり。保健所が行った日本語学校健診にて要精密検査と指摘されるも、同年１１月に医療機関を受診し、結核と診断され、感染症指定医療機関に入院した。
○　保健所はＢ校の生徒・職員約８０名を対象に接触者健診を実施。その結果、複数の発病者と３０人を超える感染者（結核菌に感染しているが発病していない者）が確認された。
○　患者Ａは保健所の健診時に咳症状があったものの、医療機関の受診が遅れたことが感染拡大の要因と考えられる。

○日本語教育機関学生の出身国・地域別内訳（平成27年度）

	人	%
中国	17,655	34.7%
ベトナム	15,715	30.9%
ネパール	6,301	12.4%
台湾	2,070	4.1%
韓国	2,041	4.0%
スリランカ	1,102	2.2%
ミャンマー	1,067	2.1%
タイ	630	1.2%
インドネシア	594	1.2%
モンゴル	571	1.1%
その他	3,101	6.1%
計	50,847	100.0%

（出典）日本語教育機関の概況（一般財団法人日本語教育振興協会）

○日本語教育機関学生に多い出身国の結核の状況（2014年）

	推定結核患者数（人）	推定結核り患率（人口10万人対）
インドネシア	1,000,000	399
中国	930,000	68
ミャンマー	200,000	369
ベトナム	130,000	140
タイ	120,000	171
ネパール	44,000	158
韓国	43,000	86
スリランカ	13,000	65
モンゴル	5,000	170

（参考）

	推定結核患者数（人）	推定結核り患率（人口10万人対）
日本	23,000	18

（出典）Global Tuberculosis Report 2015（World health Organization）